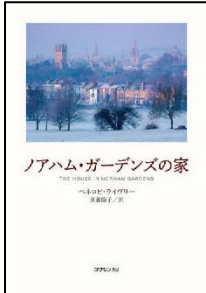


Book Preview

富山高校図書館 2026.9



『 ノアハム・ガーデンズの家 』

ライヴリー, ペネロピ【著】

一九七〇年代初頭の英国、オックスフォード。十四歳のクレアは、古い家具や調度品、書籍であふれた大きな家に、大おばたちと暮らしている。高齢のふたりにかわって、家事や家計の切り盛りをするのはクレアの役目だ。ある日、クレアは物置のトランクのなかに、彩色された木の板を見つける。それはかつて、人類学者だった曾祖父がニューギニアから持ちかえったものだった。やがて、クレアは奇妙な夢—はるか彼方で暮らす、見知らぬ人々の夢—を見るよ

『 こうしてぼくはスパイになった 』

ホプキンソン, デボラ【著】

1944年2月、ナチス・ドイツの空襲がつづいているロンドン。13歳のバーティは空襲警報を受け、民間防衛隊の伝令係としてはじめての任務のため、街へ飛びだしていった。自転車のかごにのっている相棒は、救助犬のリトル・ルーだ。大あわてで自転車をこいでいたバーティは、女の子にぶつかってふたりとも転んでしまった。女の子が立ち去ったあと、バーティは通りで一冊のノートを拾う。それは秘密諜報員になるための訓練を受けた女性のもので、文章の後半は暗号になっていた。ノートを道に落としていったアメリカ人の少女エレノアに再会したバーティは、ノートを書いたフランス人女性・ヴィオレットが行方不明になったと知る。彼女を探すため、エレノアと探偵志望の友だち・デイヴィッドといっしょに、ノートの暗号の解読に取り組むが…。数々の文学賞に輝いた児童文学作家が贈る、子どもたちの勇気と謎解きを描くミステリ！



『 孤高の血族 』

濱 嘉之【著】

地方都市で絶大な影響力を持つ医療一族。初代理事長の父が築いた病院に、かつて異端視された次男・池田利雄が帰還する。海外で最先端医療を学んだ彼は、経営の在り方を刷新し、拡大路線へと舵を切る。親族の権勢さえも削ぎ、巨大な権力を手に入れた利雄だが、やがて悲劇が訪れて…。公安小説の第一人者が描く、原点の物語。

『 それでも希望は失わない！「国境なき医師団」いのちの現場へ 』

中嶋 優子【著】

本書は著者が国境なき医師団の海外派遣スタッフとして世界各地で医療支援に従事してきた体験を通じて、人道援助の最前線で起きていることを知り、今日から世界の未来について考え、行動を起こすきっかけとなる一冊です。又、破天荒ともいえる学生時代のエピソード、苦手なことを乗り越える「グッド・イナフ」(必要最低限で大丈夫)の精神、類まれな「鈍感力」であらゆる局面にチャレンジする著者の魅力あふれるキャラクターも本書の読みどころ。



『 翠雨の人 』

伊与原 新【著】

私はあきらめない。科学が導いてくれるたったひとつの真実を見つけるまで——。「雨は、なぜ降るのだろう」。少女時代に雨の原理に素朴な疑問を抱いて、戦前、女性が理系の教育を受ける機会に恵まれない時代から、科学の道を志した猿橋勝子。戦後、アメリカのビキニ水爆実験で降った「死の灰」による放射能汚染の測定にたずさわって、後年、核実験の抑止に影響を与える研究成果をあげた。その生涯にわたる科学への情熱をよみがえらせる長篇小説。